

授業改善のヒント 中学2年 国語

1 県全体の状況

(1) 正答率 60%以上の問題の割合 68.8%

問題数	正答率 60%以上		正答率 40%以上 60%未満		正答率 40%未満	
32 問	22 問	68.8%	8 問	25.0%	2 問	6.3%

(2) 観点別正答率

No	観 点	正答率
1	話す・聞く能力	63.9%
2	書く能力	58.5%
3	読む能力	66.7%
4	言語についての知識・理解・技能	73.2%

(3) 出題形式別正答率

No	出 題 形 式	正答率
1	選択	68.2%
2	記述	76.1%
3	論述	45.0%

(2) 観点別正答率

No	観 点	正答率
1	話す・聞く能力	63.9%
2	書く能力	58.5%
3	読む能力	66.7%
4	言語についての知識・理解・技能	73.2%

(3) 出題形式別正答率

No	出 題 形 式	正答率
1	選択	68.2%
2	記述	76.1%
3	論述	56.2%

2 定着が良好な領域や単元等

(1) 「話すこと・聞くこと」

① 「話の全体と部分に注意して的確に聞き取る」問題の正答率は95.9%である。1

(2) 「読むこと」

① 「登場人物の心情を押さえて読む」問題の正答率及び「文章の展開に即して内容をとらえる」問題の正答率はそれぞれ80.1%、84.5%である。[4](1) [5](2)

(3) 「言語事項」

① 「漢字の読み」の正答率は「起床」が95.3%、「扱い」が93.6%である。[2](1)①③

② 「主述の把握」の正答率は、81.8%であり、比較して約20%上昇した。[3](5)

3 指導法の工夫改善が必要な領域や単元等

(1) 「話すこと・聞くこと」

① 「効果的なインタビューの仕方についての理解」の問題の正答率は30.3%である。[1](3)

(2) 「書くこと」

① 「適切な構成を工夫して書く」問題の正答率は49.7%である。[6](2)②

(3) 「読むこと」

① 説明的文章の読み取りでは、「文章の構成や展開を正確にとらえる」「文脈の中での語句の効果的な使い方を理解する」及び「文章全体の展開に即して内容をとらえる」問題の正答率は、それぞれ58.8%、49.4%、44.7%である。[5](1)(3)(5)

(4) 「言語事項」

① 「漢字を書く」問題において、「ふくざつ」の正答率は45.1%である。「とどける」の無答率は20.2%である。2①④

② 筆順問題「情」の正答率は47.9%である。3

③ 「文の成分(修飾・被修飾の関係)」の正答率は43.2%(H18:26.0%)である。[3](7)

④ 「敬語の使い方」の問題の正答率は23.2%である。[3](8)

1 話すこと・聞くこと	「話すこと・聞くこと」の学習活動を指導計画に基づいて実践するとともに、読解指導にも取り入れましょう。
--------------------	--

1 問題の概要

1	(3) インタビューがどんな点で効果的だったかを4つの選択肢から抜き出す問題 誤答例 2 「インタビューの柱になる大きな質問がはっきりしている」 4.3% 3 「自分が事前に調べたことをもとに質問している」 12.8% 4 「あらかじめ現在の学校の様子をまとめたものをもとに、比較するように質問している」 52.2% 9 上記以外の場合 0.1%	0 無解答 0.3% 正答率 30.3%
---	---	-----------------------------

2 正答率が低い要因

(1) インタビュー等、音声言語の経験が不足している。

7割近くの生徒が正解できなかった要因として、第一に普段の学習活動でインタビューの経験があまりないことが挙げられます。第二に、インタビューや他の様々な「話すこと・聞くこと」の学習を行っていても、一問一答式で終わってしまい、本問のように、話し手と聞き手の内容に合わせたやりとりの経験が不足しているためと考えられます。

3 指導法改善のヒント

(1) 「話すこと・聞くこと」の学習活動を指導計画に明確に位置付け、実践しましょう。

インタビューやパネルディスカッション、ディベート等の学習活動を指導計画に明確に位置付け、的確に実施することが大切です。また、国語で学んだことを他教科や特別活動、総合的な学習の時間等でも生かせるよう全体計画を作成し、実践することが望まれます。

(2) 「読むこと」の指導過程上に、「話すこと・聞くこと」の学習活動を取り入れましょう。

「読むこと」の指導の中で、「話すこと・聞くこと」の学習活動を取り入れましょう。その際、書いたものを形式的に発表し合うだけでなく、広がりのある話し合いにするための質問を工夫させることが大切です。さらに、相手の立場を尊重して話の内容や方向性をとらえたり、自分の考えをまとめたり深めたりする学習を、日常生活に関連付けて積み重ねさせましょう。

2 書くこと	構成を意識させながら、条件付き短作文を書かせる活動を多く取り入れましょう。
---------------	---------------------------------------

1 問題の概要

6	(2)② 適切な構成を工夫することができるかどうかをみる問題。(「二つのグラフから分かることを根拠に、考えたことや感じたことを書く」問題の第3問) 誤答例 2 「段落頭に1字分の空白がない場合」 6.7% 3 「2段落構成で書いていない場合」 9.0% 9 上記以外の場合(分量不足や横書き、箇条書きにしている場合等) 18.6% 0 無解答 16.0%	正答率 49.7%
---	---	--------------

2 正答率が低い要因

(1) 原稿用紙の使用に慣れていない。

段落を替える際の1字分の空白を開けるきまりが、身に付いていないことが挙げられます。

(2) 条件に従い、構成を意識して書くことに慣れていない。

誤答例2の場合は、段落が付けられていなくても、文と文の間に空白マスを空けていることから、構成の意識があると言えます。それに対して誤答例3の場合は、条件そのものが押さえられていない、構成を意識し考えて書くことに慣れていないなどが要因であると考えられます。

(3) まとまった分量で自分の考えを書く力が身に付いていない。

分量不足と無答を合わせると、30%程度になります。この要因としては、第一に、まとまっ

た分量で、根拠を基に自分の考えや感想を書くことに慣れていないこと、第二に、根拠となる情報を得た後に、複数の情報を吟味しながら自分の考えをまとめていく力や、加工していく力が十分に身に付いていないことが挙げられます。

3 指導法改善のヒント

(1) 原稿用紙の使用に慣れさせましょう。

句読点の打ち方や段落の付け方等、添削指導によって基本を身に付けさせましょう。繰り返し間違える生徒に対しては、添削したものを再度清書させるなどの指導が効果的です。

(2) 条件付き短作文を日常的に書かせましょう。

下の例を参考に2～3段落構成の短作文指導を日常的に行いましょう。

- ① 体験に基づく平易な課題を「体験→感想」「事実→意見」等の2段落構成で書かせる。
- ② 「賛成」「反対」の立場から意見を頭括法で書かせるなど、様々な構成に書き慣れさせる。
- ③ 表やグラフ等、非連続型の情報から書かせる機会を設ける。
- ④ 原稿用紙を使う際には時間を意識させる。200字の場合、15分で書くことを目標にさせる。

(3) 批評的に読んだり書いたりする活動をもとに、話し合う機会を取り入れましょう。

下の例を参考にし、自分の考えをまとめたり深めたりする力を高めましょう。

- ① 批評的に読んだり、根拠を挙げて話したり書いたりする活動を積極的に取り入れる。
- ② 一問一答に陥らず、多くの生徒の考えを引き出すよう発問や指名を工夫する。
- ③ 他者の意見を建設的に評価しながら聞き、考えたことをメモさせるなど作業化し、グループで話し合わせる指導法を、国語科だけでなく、教育活動全体で取り入れる。

3 読むこと	書かれている言葉を大切にして文章全体を押さえさせましょう。
---------------	-------------------------------

1 問題の概要

5	<p>(5) 文章の展開に即して内容をとらえる問題</p> <p>誤答例 1 「田上山に対して、人々が現在も治山事業を行っており、今後百年もすれば成果があらわれることが期待されている」 14.9%</p> <p>2 「田上山をよみがえらせようと、千年以上も昔から人々が努力を重ねた結果、ここ百年の間でようやく成果が見られるようになってきた」 33.1%</p> <p>4 「田上山に対して、以前のように森林を取り戻すために、人々は努力を重ねているが、百年たった今も成果はあらわれていない」 5.6%</p>	正答率 44.7%
----------	---	-----------

2 正答率が低い要因

(1) 文章全体の叙述内容について十分に把握できていない。

時代の経過とともに変化していく治山事業と田上山の様子について、文章全体の叙述内容について十分に把握できていないためと考えられます。設問(1)の意味段落に分ける問題も4割強の生徒が正答できませんでした。各時代の叙述をしっかりと読みとらずに、時代を表す言葉だけで判断してしまった生徒が多いと考えられます。

3 指導法改善のヒント

(1) 文章の全体と部分の関連性を意識した授業を工夫しましょう。

読解の授業では、形式段落順に叙述を押さえさせる指導が一般的です。一方で、全体の構成や全体の中でのキーワードの役割、題名と内容の関連性等、文章全体を巨視的に押さえる視点も大切です。文章全体をとおして読ませ、構成や部分との関係性を総合的・論理的に考えさせる授業を工夫しましょう。

(2) 叙述(書かれている言葉)に即して読ませる授業を展開しましょう。

「読むこと」の指導では、叙述の中に根拠を求めながら読みを深めていく過程が大切です。文章構成や「具体的に説明する部分」と「抽象的にまとめていく部分」に着目しながら発問を工夫したり、サイドラインを引かせ、発表や話し合いの場面では、根拠となる具体的な言葉や文を明確にすることで内容の深まる話し合いにしましょう。

(3) 長文教材を読む機会を与えましょう。

長文を十分に理解する力を養うためには、日頃から読書等をとおして長文に親しむ習慣を付けさせておくことが大切です。また、生徒の自主学習支援の中で、新聞のコラム欄等を読み、要旨を字数を決めてノートに書くなどの取組を継続させることも効果的です。

4 言語事項	3領域と関連付け、様々な場面で意識的に指導しましょう。
---------------	-----------------------------

1 問題の概要

2	(2) 小学校で学習した漢字を書く ①「複雑」 「複」だけ誤答 30.0% 「雑」だけ誤答 2.2% それ以外 5.6% 無解答 17.0%	正答率 45.1%
3	(3) りっしん偏の筆順で「1 一画目」(誤答)としたもの 36.8%。 (7) 「はらはらと」の被修飾語を「3 落ち葉が」としたもの 47.6% (H18:26.0%) (8) 「行く」の尊敬語を「参る」(誤答)としたもの 67.0%	正答率 47.9% 正答率 43.2% 正答率 23.2%

2 正答率が低い要因

- (1) 画数が比較的多い漢字になると安易にひらがなで書いたりすること、紛らわしい部首や漢字を正確に書く習慣が身に付いていないことが要因として考えられます。
- (2) 筆順については、書写指導において毛筆指導と硬筆指導が関連付けられていないこと、日頃の書写の習熟の時間の確保が不十分であることが要因と考えられます。
- (3) 「はらはらと」という修飾語に対する被修飾語は「舞う」ですが、誤答の大半は、「落ち葉が」を被修飾語としたものでした。本題のように、修飾・被修飾の関係が離れた位置にある場合に誤答が多くなります。文節相互の関係を正確に見分ける力が十分ではないと考えられます。
- (4) 敬語の問題において「いらっしゃいますか」の正答率は32.6%、「拝見します」の正答率は74.0%でした。「参る」「いらっしゃる」のように正答率が低い敬語表現については、日常生活で話したり、聞いたりする機会が少ないことが要因と考えられます。

3 指導法改善のヒント

(1) 3領域と関連した指導を工夫しましょう。

① 漢字指導に関して

- 日頃から「学年別漢字配当表」の漢字を意識させ、身に付けさせるよう配慮しましょう。
- 国語辞典を身近に置き、基本的な漢字の意味調べ等に積極的に活用させましょう。
- 身に付きにくい漢字は繰り返し指導しましょう。
- 筆順や書き誤りやすい漢字は、書写指導に限らず平素の授業でも日常的に確認しましょう。

② 文法指導について

- 読解指導と関連して随時文例を挙げ確認する、短作文指導の折に例示して確認する、漢字テストに補足して文法事項を取り上げるなど、繰り返し指導することが大切です。

(2) 様々な場面での指導を工夫しましょう。

- 学級日誌、壁新聞、掲示物等の記述に当たっては、既習の漢字を極力使用させましょう。
- 全校読書の時間を設け、全校体制で読書に取り組む雰囲気醸成することも有効です。
- 敬語表現は小学校5、6年での学習事項です。総合的な学習の時間等と関連させるなど、中学校1学年から意識的に指導していくことが必要です。

(3) 家庭学習で継続的に取り組ませましょう。

- 計画的に漢字プリント等を配布し、継続的に取り組ませましょう。課題作成に関しては平成16年度「特定の課題に関する調査(国政研)」の漢字に関する出題等が参考になります。

平成19年度宮城県学習状況調査 中学校2年 国語

問題番号	通し番号	出題形式	主観点	問題内容	出題のねらい
1	(1)	選択	話・聞	インタビュー	話の全体と部分に注意して的確に聞き取ることができる。
	(2)				適切な表現で、目的に沿った質問をすることができる。
	(3)				効果的なインタビューの仕方について理解している。
2	①	記述	言語	漢字の読み	漢字を正しく読むことができる。
					漢字を正しく読むことができる。
					漢字を正しく読むことができる。
					漢字を正しく読むことができる。
	②			漢字の書き	漢字を正しく書くことができる。
					漢字を正しく書くことができる。
					漢字を正しく書くことができる。
					漢字を正しく書くことができる。
3	(1)	選択	言語	語句	慣用句の意味について理解している。
					漢語の組み立てについて理解している。
					漢字の筆順について理解している。
					同音異字の用法について理解している。
	(2)			文法	文の成分(主語・述語の関係)について理解している。
					副詞の呼応について理解している。
					文の成分(修飾・被修飾の関係)について理解している。
					敬語の使い方について理解している。
4	(1)	選択	読むこと	文学的な文章	登場人物の心情を押さえて読むことができる。
	(2)				表現の特徴に注意して読むことができる。
	(3)	記述			文脈の中での語句の効果的な使い方を理解することができる。
	(4)	選択			登場人物の心情を押さえて読むことができる。
	(5)	選択			作品の展開を考えながら主題を考えることができる。
5	(1)	選択	読むこと	説明的な文章	文章の構成や展開を正確にとらえることができる。
	(2)				文章の展開に即して内容をとらえることができる。
	(3)	論述			文脈の中での語句の効果的な使い方を理解することができる。
	(4)	選択			文章の構成や段落相互の関係をとらえることができる。
	(5)				文章の展開に即して内容をとらえることができる。
6	(1)	論述	書くこと	作文	提示された資料から誤題を見つけることができる。
	①				根拠を挙げて、自分の考えを書くことができる。
	②				適切な構成を工夫することができる。

平成19年度宮城県学習状況調査 中学校2年 国語

通し 問題 番号	予想正答率	県正答率	誤答率	無答率	市町村正答率	正答
1	70	95.9	3.9	0.1	89.6 ~ 100.0	2
2	50	65.6	34.1	0.3	51.7 ~ 80.0	2
3	60	30.3	69.4	0.3	12.5 ~ 40.0	1
4	60	95.3	2.6	2.1	89.5 ~ 100.0	きしょう
5	60比	67.4	23.6	9.1	47.5 ~ 90.0	よい
6	70	93.6	3.5	3.0	87.3 ~ 100.0	あつか
7	60	83.3	12.0	4.7	64.0 ~ 100.0	かたむ
8	50比	45.1	37.9	17.0	20.0 ~ 60.0	複雑
9	50	76.7	7.8	15.6	65.7 ~ 90.2	資料
10	50	92.2	2.1	5.7	86.1 ~ 99.0	忘
11	50	73.8	6.0	20.2	59.1 ~ 88.9	届
12	50	63.7	35.9	0.4	50.0 ~ 71.0	2
13	60	94.8	4.9	0.3	91.2 ~ 100.0	4
14	50	47.9	51.9	0.2	34.4 ~ 80.0	3
15	70	91.1	8.8	0.2	85.7 ~ 100.0	3
16	70比	81.8	17.9	0.3	73.8 ~ 88.8	1
17	70	98.0	1.8	0.2	89.8 ~ 100.0	2
18	50比	43.2	56.5	0.4	27.9 ~ 51.7	4
19	50	23.2	76.5	0.3	16.3 ~ 35.4	4
20	60	80.1	19.4	0.4	70.9 ~ 90.0	3
21	50	68.2	30.7	1.1	59.1 ~ 90.0	2
22	60	57.4	25.4	17.2	46.1 ~ 90.0	猫背になって (注)6字で書かれているが、誤字がある場合も可。
23	60	87.3	12.0	0.7	79.7 ~ 94.4	2
24	60	65.4	33.6	1.0	50.6 ~ 80.0	4
25	70	58.8	39.8	1.4	49.2 ~ 80.0	7
26	70	84.5	14.3	1.2	76.7 ~ 92.8	1
27	50	49.4	30.3	20.3	30.4 ~ 80.0	(例)木を切ることを禁止したり、植林したりしたこと。(23字)
28	70	71.0	28.0	1.0	64.0 ~ 80.0	4
29	60	44.7	53.7	1.6	30.0 ~ 49.6	3
30	70P	65.3	28.8	5.9	41.4 ~ 83.6	(例) (世界の年平均気温平年差からわかること) 年によってばらつきはあるが、世界の気温は上がってきている。/最近20年間は、過去の平均気温を上回る年が続いている。(家庭からの二酸化炭素排出量からわかること) 照明・家電製品などから出る排出量が最も多く、29.7パーセントを占めている。/暖房による二酸化炭素の排出量は、全体の中であまり多くはない。 (注)グラフAとグラフBからわかることが、それぞれ一文で正しく書かれている。
31	50P	60.5	22.7	16.8	33.6 ~ 80.0	(例) グラフAを見ると、年々地球の気温は上昇しており、地球温暖化は確実に進んでいることがわかる。これを防ぐためには毎日の家庭生活を見直し、温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量を減らすことが大切だ。グラフBを見ると、家庭から出る二酸化炭素の約60パーセントが、自動車と照明・家電等から出ていることがわかる。近くに行くときは自動車は使わない、照明をこまめに消すなど、身近なことから取り組んでいくべきである。 (198字) (注)グラフA及びBから読み取れることと、自分の考えたことや感じたことが書かれていること。
32	60	49.7	34.3	16.0	35.0 ~ 80.0	(例) グラフAを見ると、年々地球の気温は上昇しており、地球温暖化は確実に進んでいることがわかる。これを防ぐためには毎日の家庭生活を見直し、温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量を減らすことが大切だ。グラフBを見ると、家庭から出る二酸化炭素の約60パーセントが、自動車と照明・家電等から出ていることがわかる。近くに行くときは自動車は使わない、照明をこまめに消すなど、身近なことから取り組んでいくべきである。 (198字) (注)字数が161字以上200字(9行以上10行以内)で、2段落構成で書かれている。

注) 予想正答率の欄にある「比」は、経年比較問題であることを示す。
また、「P」は、問題文等の示す情報を整理して読み解く力をみる問題であることを示す。

授 業 改 善 の ヒ ン ト 中 学 2 年 社 会

1 県全体の状況

(1) 正答率60%以上の問題の割合 27.3%

問題数	正答率60%以上		正答率40%以上60%未満		正答率40%未満	
33問	9問	27.3%	18問	54.5%	6問	18.2%

(2) 観点別正答率

No.	観 点	正答率
1	社会的な思考・判断	57.0%
2	資料活用の技能・表現	53.8%
3	社会的事象についての知識・理解	47.7%

No.	出 題 形 式	正答率
1	選択	53.2%
2	記述	49.7%
3	論述	47.5%

(3) 問題内容別正答率

No.	問 題 内 容	正答率	No.	問 題 内 容	正答率
1	世界の地域構成	56.9%	6	古代までの日本	42.4%
2	日本の地域構成	48.3%	7	中世の日本	48.3%
3	身近な地域	49.4%	8	近世の日本	63.4%
4	都道府県	63.0%	9	地歴融合問題	51.3%
5	世界の国々	54.0%			

2 定着が良好な領域や単元等

(1) 地理的分野

- ① 地形図上の方位を読み取る問題の正答率は71.9%である。③(1)
- ② 統計資料を読み取り、設定された課題への活用の是非を考える問題の正答率は76.5%である。④(2)
- ③ 複数のグラフから、貿易の特徴の変化を読み取る問題の正答率は70.1%である。⑤(2)
- ④ 京都の地域的特色を読み取る問題の正答率は75.4%である。⑩(2)

(2) 歴史的分野

- ① 古代における政治や文化、生活の特徴を考察する問題の正答率は75.5%である。⑦(1)
- ② 鎖国政策の目的を問う問題の正答率は87.4%であり、全問題中最も正答率が高い。⑨(4)

3 指導法の工夫改善が必要な領域や単元等

(1) 地理的分野

- ① 地図上で、主な国々の位置を正しく読み取る問題の正答率は49.3%である。①(4)
- ② 都道府県の位置と名称の知識についての問題の正答率は49.3%、日本の地域区分を理解し、設問の条件に一致する都道府県の位置と名称を考察する問題は41.7%である。②(2)(3)
- ③ 縮尺の意味を理解し、実際の距離を計算する問題の正答率は28.8%、地図記号を基に、地形図の景観を読み取る問題は47.7%である。③(2)(3)
- ④ 地理的位置と統計資料を関連付け、複数の県の共通点を読み取る問題の正答率は49.4%であり、全問題中最も無答率(37.1%)が高い。④(3)
- ⑤ 降水量と農業の関係や農業分布の様子を読み取る問題の正答率は37.9%である。⑤(1)

(2) 歴史的分野

- ① 古代における日本と大陸との関係についての問題の正答率は28.9%で、平安時代の仏教についての理解を問う問題の正答率は32.4%である。⑥(1)(2)
- ② 奈良時代の代表的な文化の理解を問う問題の正答率は16.2%で、資料から古代の文化の特色の変遷について考察する問題の正答率は48.8%である。⑦(2)(3)
- ③ 鎌倉幕府を開いた人物の名前を書く問題の正答率は45.7%、北条氏の行った執権政治についての理解を問う問題の正答率は47.4%、大きな日本の歴史の流れの中に、外国との関係を位置付ける問題の正答率は40.4%である。⑧(1)(2)(3)
- ④ 豊臣秀吉の行った刀狩の影響を考察する問題の正答率は45.7%である。⑨(3)
- ⑤ 京都を中心に起きた歴史的事象を選択する問題の正答率は22.3%である。⑩(4)

地理的分野 1

日常的に地図を活用する習慣を身に付けさせましょう。

1 問題の概要

①	(4) 地図上で、おもな国々の位置を正しく読み取ることができる。	正答率49.3%
②	(2) 都道府県の位置と名称の知識がある。	正答率49.3%
②	(3) 日本の地域区分を理解し、設問の条件に一致する都道府県の位置と名称を考察することができる。	正答率41.7%

2 正答率が低い要因

- (1) 世界や日本の地図を活用し、主な国々や都道府県の名称や絶対的位置、相対的位置を調べる学習が不足していると考えられます。
- (2) 白地図等を用いた作業学習の体験や、既習の国や都道府県の名称や位置を繰り返し学ぶ機会が少ないため、知識の定着が十分ではないと考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) 学習環境を整え、地図を活用する機会を増やしましょう。

教室や廊下等に日本地図や世界地図を掲示したり、地図帳を常に準備させるなど、生徒が日常的に地図を活用できる環境をつくり、随時、地名や位置を確認させましょう。歴史学習においても、出来事が起こった場所や位置を地図帳で確認させるなどの取組が大切です。

- (2) 繰り返しの学習を意図的に計画し、作業的な学習を重視しましょう。

既習事項の定着度を確認し、定着の不十分な名称や位置についての指導を重点的に行いましょう。さらに、地図を見るだけでなく、地名をチェックさせたり、白地図に着色させたり、言葉や文章で表現させたりするなどの具体的な活動を取り入れましょう。

指示①：愛媛県はどこにありますか？
白地図の愛媛県の場所をマーカーで着色しなさい。
指示②：愛媛県がどこにあるか、説明しなさい。

地理的分野 2

身近な地域の地形図を活用し、地図の見方に習熟させましょう。

1 問題の概要

③	(2) 地形図の縮尺の意味を理解し、実際の距離を計算することができる。	正答率28.8%
③	(3) 地図記号を理解し、地形や土地利用の特徴から地形図の景観を読み取ることができる。	正答率47.7%

2 正答率が低い要因

- (1) 縮尺の意味が分からず、地形図上の長さを実際の距離に直す計算の仕方や単位換算の仕方が身に付いていないことと、実際の距離についての感覚が養われていないことが考えられます。
- (2) 地形図に示された情報を的確に読み取る力が不足していると考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) 身近な地域の地形図を活用し、土地利用の様子や距離を実感をもってとらえさせましょう。

地形図を丁寧に観察させ、地形図にある情報から実際の景観をイメージさせるとともに、野外調査を通して実際の様子を確認させましょう。自分の通学経路が見られるような身近な地図を活用することで、地図に対する興味・関心も高めさせながら、地図の見方を培いましょう。

- (2) 距離の計算では、それぞれの生徒のつまずきを見極め、解消させましょう。

距離の計算は、縮尺の意味が分からない、計算の仕方が分からない、単位の換算ができないなど、それぞれの生徒の実態を見極め、つまずきに応じた手だてを整えることが大切です。段階的な指導ができる内容なので、難易度を変えた問題の設定や生徒の手による問題づくりなどを通して習熟度を高めましょう。

T：2万5千分の1の地形図で、8cmは実際には何kmですか？
S：8cm×25,000=200,000cm
200,000cmは？ え～と答えは…
20km？ 2km？ 0.2km？
km, m, cmの関係はどうだっけ？
え～と… 20kmでいいんだ！
待てよ、学区内で20kmは変だな？
そうか！ 2kmか！

地理的分野

資料を正確に読み取らせ、書いてまとめさせる活動を重視しましょう。

1 問題の概要

4	(3) 地理的位置と統計資料を関連付けて、複数の県の共通点を読み取ることができる。	正答率49.4%
5	(1) 主題図から、降水量と農業の関係や農業分布の様子を読み取ることができる。	正答率37.9%

2 正答率が低い要因

- (1) 資料の中の情報を正確に読み取り、複数の情報を比較したり関連させたりして、結論に結び付ける学習が不足していると考えられます。
- (2) 自分の考えや学習の要点、まとめを書く活動が少なく、書くことが習慣化されていないため、無答率が高いと考えられます。(4)(3)の無答率37.1%)

3 指導法改善のヒント

- (1) 資料から読み取れることを、丁寧に整理させ、まとめさせましょう。

表やグラフ、地図の主題名や単位、数値等に着目させ、示されていることを正しく読み取らせましょう。その際、生徒が読み取った内容を確認したり、まとめた文章を点検するなどの指導が必要です。

- (2) 複数の資料の比較や関連に重点を置きましょう。

表をグラフに加工する作業や、地名を地図に位置付ける活動、地図とグラフを関連させ、データを比較して共通点や相違点を見付けさせ、自分の考えを書いてまとめさせる活動を取り入れましょう。

T: オーストラリアの牧羊はどこで行われているか。ノートに書きなさい。
S: どう書けばいいんだろう?
中央の外側? 内陸部?
T: それでは、地図から読み取れることを一つ一つ確認してみよう。
S: 牧羊のマークは…。降水量を表しているのは…。緯度と経度は…。方位からみると…。高度も分かるかな?
T: 分かったことを整理してみよう。

歴史的分野

基本的な歴史的事象についての知識をしっかり定着させましょう。

1 問題の概要

6	(1) 古代における日本と大陸との関係について理解している。	正答率28.9%
6	(2) 平安時代の仏教について理解している。	正答率32.4%
7	(2) 奈良時代の代表的な文化を理解している。	正答率16.2%
7	(3) 資料から、古代の文化の特色の変遷について考察することができる。	正答率48.8%

2 正答率が低い要因

- (1) 東大寺にある「金剛力士像」を奈良時代の文化財と解答した生徒が72.2%いるなど、一つの歴史的事象を整理してとらえることができていると考えられます。
- (2) 各時代の文化の特色を、代表的な文化財と関連付けてとらえていないと考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) 具体的な資料を活用し、興味・関心を高めさせながら、学習内容の定着を図りましょう。

歴史学習への導入期でもあることを踏まえ、生徒の疑問や課題意識を生かした学習を展開させるとともに、具体性のある資料を提示し、興味・関心を引き出し、知識の定着につなげましょう。

- (2) 各時代の特徴と代表的な文化財を関連させて指導しましょう。

各時代の政治や社会の様子を背景にして、文化の特色を押さえさせ文化財や人物等を、文化史年表とにまとめさせるとともに、大きな時代区(古代や中世など)ごとに、各文化の特徴を見付けさせる指導が必要です。

古代まで(縄文~平安)の文化史年表をつくらう!

時代	文化名	主な文化財や人物など
縄文	縄文	縄文土器 三内丸山遺跡
弥生	弥生	弥生土器 金鳳器 卑弥呼
古墳	古墳	前方後円墳 はにわ
飛鳥	飛鳥	法隆寺 聖徳太子
奈良	天平	東大寺・大仏 聖武天皇
平安	国風	源氏物語 枕草子 清少納言

歴史的分野2 個々の歴史的事象を関連付けてとらえさせましょう。

1 問題の概要

8	(1) 鎌倉幕府を開いた人物の名前を理解している。	正答率45.7%
8	(2) 北条氏の行った執権政治について理解している。	正答率47.4%
8	(3) 大きな日本の歴史の流れの中に外国との関係を位置付けることができる。	正答率40.4%
10	(4) 応仁の乱が、京都を中心としたものであることを理解している。	正答率22.3%

2 正答率が低い要因

- (1) 各時代の代表的な人物や政治のしくみについての理解が不十分であるとともに、時代の大きな移り変わりを、東アジアを中心とした外国の動きと関連してとらえていないと考えられます。
- (2) 歴史的事象と地理的事象の関連付けがなされておらず、出来事が起こった場所と位置を地図の上で確認する機会が少ないためと考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) 時代ごとの学習のまとめを活用して、各時代の特色をとらえさせましょう。

各時代の特色を、年代や代表的な人物、政治のしくみ、文化財等のポイントを明確に示しながら、整理させることが大切です。また、次の時代を学習する際に、導入の段階で、前の時代のポイントを振り返らせ、確認させるようにしましょう。

- (2) 東アジアとのかかわりを背景に、時代の変遷をとらえさせましょう。

古代から中世までの時期は、東アジア諸国の影響を強く受けることに着目させながら学習を展開させることが大切です。歴史地図や年表を作成させるなどの作業的な学習を通して定着を図りましょう。

- (3) 歴史学習で扱った事象についても、地図帳を活用して地名や位置を確認させましょう。

歴史的事象に関わる年号や人物(人名)などを含めて整理することが多いですが、歴史的事業に関わって地域を扱う場合は、歴史の授業であっても、実際に地図帳を活用して確認させる活動を取り入れることが大切です。

Q: 下の日本地図の中に、次の出来事が起こった場所の印(●)を付けてみよう

- 平城京
- 平安京
- 延暦寺
- 壇ノ浦の戦い
- 鎌倉幕府
- 応仁の乱



歴史的分野3 「書くこと」を重視し、自分の言葉で書かせましょう。

1 問題の概要

9	(3) 豊臣秀吉の行った刀狩の影響を考察することができる。	正答率45.7%
---	-------------------------------	----------

2 正答率が低い要因

- (1) 「刀狩」の内容から、その影響について考える力が身に付いていないと考えられます。
- (2) 与えられた条件を使って説明することが不得手であり、的確に文章を構成することができないと考えられます。(9) (3)の無答率33.8%)

3 指導法改善のヒント

- (1) 因果関係を重視し、歴史的事象を多面的・多角的にとらえさせましょう。

一つの歴史的事象について、原因や結果、影響をとらえさせ、事象相互のつながりを重視した学習を展開しましょう。

指示: 「刀狩」についてまとめよう!

- ①いつ? ②だれが?
- ③なぜ(目的)?
- ④どんなことをしたか?
- ⑤どうなったか?

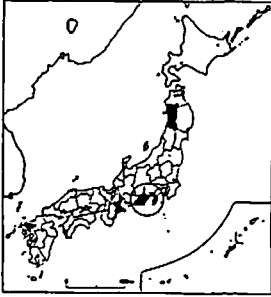
- (2) ノート指導を工夫するなど、日常的に「書く活動」を取り入れましょう。

板書の構造化を一層図るとともに、学習過程でのノート指導を工夫しましょう。個人の考えをまとめさせて発表につなげたり、授業中の気付きを記述させるなど、特に「書く活動」につながる多様な手法を取り入れ、自分の言葉で「書くこと」を習慣付けていきましょう。

平成19年度宮城県学習状況調査 中学校2年 社会

問題番号	通し番号	出題形式	主観点	問題内容	出題のねらい	
1	(1)	1	知識理解 資料活用	世界の地域構成	地図上に示された大陸と大洋の名称を理解している。	
	(2)	2			緯度と経度を用いて、地球上の位置を表すことができる。	
	(3)	3			地図上で、経度の差から時差を計算することができる。	
	(4)	4			地図上で、おもな国々の位置を正しく読み取ることができる。	
2	(1)	5	知識理解	日本の地域構成	日本列島を構成する4つの島の名前を理解している。	
	(2)	6			都道府県の位置と名称の知識がある。	
	(3)	7			選択	思考判断
3	(1)	8	資料活用	身近な地域	地形図上の方位を読み取ることができる。	
	(2)	9			記述	地形図の縮尺の意味を理解し、実際の距離を計算することができる。
	(3)	10			選択	地形記号を理解し、地形や土地利用の特徴から地形図の景観を読み取ることができる。
4	(1)	11	思考判断	都道府県	統計資料を活用し、別の情報を見つけるために考察することができる。	
	(2)	12			選択	統計資料を読み取り、設定された課題への活用の是非を考察することができる。
	(3)	13			論述	地理的位置と統計資料を関連付けて、複数の県の共通点を読み取ることができる。
5	(1)	14	資料活用	世界の国々	主題図から、降水量と農業の関係や農業分布の様子を読み取ることができる。	
	(2)	15			複数のグラフから、事例国の貿易の特徴の変化を読み取ることができる。	
6	(1)	16	知識理解 思考判断	古代までの日本	古代における日本と大陸との関係について理解している。	
	(2)	17			選択	平安時代の仏教について理解している。
	(3)	18			年表の出来事を読み取り、古代における日本と大陸との交流であることを指摘できる。	
7	(1)	19	思考判断 知識理解 思考判断	古代までの日本	資料から、古代における政治や文化、生活の特徴を考察することができる。	
	(2)	20			選択	奈良時代の代表的な文化を理解している。
	(3)	21			資料から、古代の文化の特色の変遷について考察することができる。	
8	(1)	22	知識理解 資料活用 思考判断	中世の日本	鎌倉幕府を開いた人物の名前を理解している。	
	(2)	23			北条氏の行った執権政治について、理解している。	
	(3)	24			選択	大きな日本の歴史の流れの中に、外国との関係を位置付けることができる。
	(4)	25			戦国時代の様子について、考察することができる。	
9	(1)	26	知識理解 思考判断 知識理解	近世の日本	近世における、外国からの影響や対外関係について理解している。	
	(2)	27			江戸幕府を開いた人物の名前を理解している。	
	(3)	28			論述	豊臣秀吉の行った刀狩の影響を考察することができる。
	(4)	29			選択	鎖国政策の目的を理解している。
10	(1)	30	資料活用 知識理解	地歴融合問題	京都の位置を理解し、隣接する県の名前を答えることができる。	
	(2)	31			京都の地域的特色を読み取ることができる。	
	(3)	32			京都に残るの文化財について理解している。	
	(4)	33			応仁の乱が、京都を中心としたものであることを理解している。	

平成19年度宮城県学習状況調査 中学校2年 社会

通し番号	予想正答率	県正答率	誤答率	無答率	市町村正答率	正答
1	70比	64.8	34.9	0.3	40.0 ~ 75.9	2
2	50比	55.4	43.2	1.4	30.0 ~ 71.3	1
3	70比	57.9	41.0	1.0	44.8 ~ 80.0	4
4	60	49.3	48.7	2.0	38.8 ~ 60.8	3
5	80	53.8	39.9	6.3	27.5 ~ 69.2	本州 (注)ひらがなでも可。
6	40比	49.3	41.9	8.8	27.5 ~ 80.0	 (注)静岡県が塗られているものだけが正答。
7	60比	41.7	57.3	0.9	27.5 ~ 57.0	3
8	80	71.9	27.2	0.9	59.3 ~ 90.0	3
9	30比	28.8	59.2	12.1	12.5 ~ 82.2	2(km)
10	70比	47.7	51.1	1.2	30.0 ~ 56.5	2
11	70	63.2	34.7	2.1	53.2 ~ 90.0	4
12	70比	76.5	21.4	2.2	59.3 ~ 88.8	1
13	40比P	49.4	13.6	37.1	29.5 ~ 90.0	(例)人口が少ないから。/大消費地(大都市)に遠いから。/第一次産業の人口の割合が高いから。/第三次産業の人口の割合が低いから。
14	70比	37.9	59.7	2.3	30.0 ~ 50.0	3
15	50比	70.1	27.2	2.6	54.7 ~ 88.8	4
16	70	28.9	70.4	0.7	19.0 ~ 46.5	2
17	50	32.4	66.6	1.0	20.0 ~ 50.0	1
18	70比	52.4	46.6	0.9	38.8 ~ 64.5	3
19	70	75.5	23.5	1.0	64.0 ~ 90.0	1
20	60比	16.2	82.9	0.9	3.8 ~ 33.3	4
21	40比	48.8	49.8	1.4	30.0 ~ 72.1	3
22	70	45.7	28.3	26.0	32.8 ~ 70.0	源頼朝 (注)ひらがなも可。「頼朝」「よりとちも」も可。
23	60	47.4	51.3	1.3	31.8 ~ 60.7	4
24	50	40.4	57.3	2.3	25.0 ~ 50.0	1
25	70	59.5	38.6	1.9	44.0 ~ 72.1	2
26	50	50.7	42.6	6.7	29.1 ~ 64.1	ポルトガル
27	70	69.7	13.2	17.1	57.0 ~ 90.0	徳川家康 (注)ひらがなも可。「家康」「いえやす」も可。
28	40比P	45.7	20.5	33.8	26.4 ~ 74.4	(例)武士と農民の身分の区別が明らかになり、兵農分離が進んだ。/農民は一揆ができないようになり、武士は農民を支配した。(注)「武士」と「農民」の2語を使い、両者が区別されたことについて書かれていれば正解とする。
29	80比	87.4	10.8	1.8	77.6 ~ 100.0	3
30	70	56.3	41.5	2.1	49.6 ~ 65.6	2
31	60	75.4	22.0	2.6	65.0 ~ 90.0	3
32	40	51.1	46.9	2.0	37.5 ~ 70.0	1
33	60	22.3	75.3	2.3	10.0 ~ 30.5	4

注) 予想正答率の欄にある「比」は、経年比較問題であることを示す。
 また、「P」は、問題文等の示す情報を整理して読み解く力をみる問題であることを示す。

授 業 改 善 の ヒ ン ト 中 学 2 年 数 学

1 県全体の状況

(1) 正答率 60%以上の問題の割合 33.3%

問題数	正答率 60%以上		正答率 40%以上 60%未満		正答率 40%未満	
30 問	10 問	33.3%	13 問	43.3%	7 問	23.3%

(2) 観点別正答率

No	観 点	正答率
1	数学的な考え方	31.4%
2	数量や図形についての表現・処理	51.7%
3	数量や図形についての知識・理解	58.1%

(3) 出題形式別正答率

No	出 題 形 式	正答率
1	選択	57.7%
2	記述	48.9%
3	論述	24.6%

(4) 問題内容別正答率

No	問題内容	正答率	No	問題内容	正答率
1	正負の数	70.6%	8	比例・反比例する量	44.2%
2	文字式の計算	52.1%	9	比例・反比例のグラフ	70.0%
3	一次方程式	79.7%	10	比例の利用	48.1%
4	二元一次方程式	62.4%	11	平面図形	30.8%
5	連立方程式の解き方	62.4%	12	空間図形	37.8%
6	連立方程式の利用	37.5%	13	直線や平面の位置	51.6%
7	文字の利用	30.9%			

2 定着が良好な領域や単元等

(1) 数と式

- ① 正負の数で、累乗を含む乗法の計算の正答率は 77.4%、四則の混じった計算の正答率は 72.7%である。□1(3) □1(1)
- ② 一次方程式を解く問題の正答率は 79.7%である。また、基本的な連立方程式を解く問題の正答率は 70.1%である。□3(1) □4(1)

(2) 数量関係

- ① 反比例のグラフの特徴を理解しているかを見る問題の正答率は 71.4%である。□10

(3) 図形

- ① 平面上の点の位置を表す座標を求める問題の正答率は 80.1%である。□11(1)
- ② 回転体の見取図を見て回転する前の平面図形を判断する問題の正答率は 69.8%である。□15

3 指導法の工夫改善が必要な領域や単元等

(1) 数と式

- ① 文字を使った式の表し方を理解しているかを見る問題の正答率は 34.6%である。□2
- ② 事象の中に数量の関係を見だし、文字を用いてそれを式に表す問題の正答率は 15.1%である。また、文字を使って数の性質を説明する問題の正答率は 24.6%である。□6(2) □7(2)

(2) 図形

- ① 高さが三角形の外にある場合の高さの作図の正答率は 15.9%である。□14
- ② 円錐の展開図を見て弧の長さを求める問題の正答率は 26.8%、円錐の体積を求める問題の正答率は 16.9%である。□17 □18

1 知識・理解

文字を使った式の表し方を理解させましょう。

1 問題の概要

2 $9x - y \div 3$ の式を、 \div の記号を使わないで表しなさい。

① $\frac{9x - y}{3}$ ② $9x - \frac{3}{y}$ ③ $3x - y$ ④ $9x - \frac{y}{3}$

正答率 34.6%

2 正答率が低い要因

- (1) 割られる式を $9x - y$ と間違い①を正答とした生徒が 43.6%と半数近くいました。
 $9x - y \div 3$ と $(9x - y) \div 3$ の違いや文字を使った式の商の表し方を正しく理解していない生徒が多くいるためと考えられます。

3 指導法改善のヒント

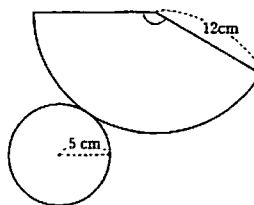
- (1) 文字式で四則の混じった計算や () を用いた計算は、数の場合と同様に行えることを具体的に理解させたいので、繰り返し指導して定着を図ることが大切です。
 (2) 生徒自身の言葉で式を読ませたり、式の意味を説明させるなどの活動を通して、式に表現したり、式の意味を読み取ったりする力をきちんと身に付けさせる必要があります。
 (3) 生徒は初めて文字を扱うので、小学校算数との関連を踏まえ、数の式から文字の式への移行を丁寧に行い、文字に対する抵抗感を和らげることが大切です。

2 表現・処理

立体、展開図を実際につくり、実物をイメージさせましょう。

1 問題の概要

17 右の図は、底面の半径が 5 cm、母線の長さが 12 cm の円錐の展開図です。この円錐の側面となるおうぎ形の弧の長さを求めなさい。
 ただし、円周率は π とします。



正答率 26.8%

2 正答率が低い要因

- (1) 円錐を展開したときにできるおうぎ形の弧の長さと底面の円周の長さの関係を正しく理解していないことが考えられます。
 (2) 弧の長さの求め方、 π の使い方の習熟が十分ではないことが考えられます。
 (3) 昨年度の類似問題の正答率も 25.2%で今年度と同様な傾向が見られました。

3 指導法改善のヒント

- (1) おうぎ形の弧の長さは底面の円周の長さと等しくなることは、展開図を組み立てるなどの数学的活動を取り入れることにより、単に知識として身に付けるのではなく、実感を伴って理解できるようにすることが大切です。
 (2) 円周の長さ、円の面積の求め方を混同している生徒が見られます。再度、それぞれの求め方の確認をする必要があります。
 また、公式 $S = \pi r^2$, $l = 2\pi r$ は、小学校で習った言葉の式から抜け出せない生徒が多いので、その使い方については段階を踏んで丁寧に指導する必要があります。

3 見方・考え方

文字式の利用をしっかりと指導しましょう。

1 問題の概要

- 6 1 辺が 2 cm の正方形の紙を、縦横 1 cm ずつ重ね、下の図のように並べていきます。
- (1) 正方形の紙を 5 枚並べたとき、できた図形の面積は何 cm^2 になりますか。
- (2) 正方形の紙を n 枚並べたとき、できた図形の面積は何 cm^2 になりますか。
 n を用いて表しなさい。

正答率
(1) 40.5%
(2) 15.1%

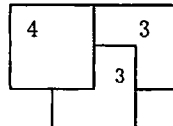
2 正答率が低い要因

- (1) 問題(1)において、誤答率が 49.0% と高いことから、問題の示すの状況の理解が不十分であると考えられます。
- (2) 問題(2)において、誤答率が 55.0%、無答率が 29.9% という状況から、図を描いて予想したり、紙の枚数と面積の関係を表にして考えようとする生徒が少なかったと考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) 事象の中から規則性や共通性を発見できるように、教材・教具の提示の仕方や補助発問の工夫を図るとともに、授業の中で生徒自身の思考過程を図や表に表し、それらを式に表現する学習を積み重ねることが大切です。

3枚



枚数	1	2	3	4	5		n
面積	4	7	10	13			
増えた面積		3	3	3			

- (2) 文字式で表した事象の規則性などの意味を、生徒自身の言葉で相手が理解できるように表現させ、多様な考え方の学びを通して、それぞれのよさや、より合理的な表現方法にも気付かせ、考え方の幅を広げていけるようにする必要があります。

4 見方・考え方

文字を用いて説明することを手順を踏んで指導しましょう。

1 問題の概要

- 7 (2) 右の図のように数字が並んでいます。縦に□で囲んだ3つの数字の和は、真ん中の数字の3倍になっています。このことは、図のどの部分でも同じように成り立ちます。その理由を説明しなさい。

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19
21	22	23	24	25	26
28	29	30	31		

正答率 24.6%

2 正答率が低い要因

$n+7$ という式だけを書いている解答が 20.3%、その他の解答が 17.1%、そして、無答率が 35.0% です。このことから、 $n+7$ や $3n$ と表現することや、その意味の理解ができていないため、目的に応じた式の変形ができない生徒が多いと考えられます。

3 指導法改善のヒント

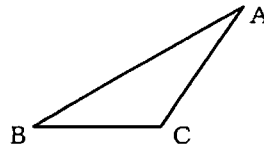
- (1) 文字式を用いて、ある命題が成り立つことを説明する場面では、具体的に数値を当てはめて確かめさせたり、言葉の式を作らせ、言葉の部分を文字に置き換えた式を作っていく指導過程を大切にする必要があります。
- (2) 文字式を利用する力を伸ばすには、事象の中に数量関係を見だし、それを文字式で表現したり、文字式が意味することを読み取ったり、計算したりする学習を、数学の学習全般にわたって行うことが大切です。

5 表現・処理

基本的な作図をいろいろな場面で活用できるように指導しましょう。

1 問題の概要

- 14 右の図の $\triangle ABC$ で、辺 BC を底辺とするときの高さを、定規とコンパスを使って、解答用紙に作図しなさい。ただし、作図に使った線は、消さずに残しておきなさい。



正答率 15.9%

2 正答率が低い要因

作図に使った線が消えていて、正しく作図されたかどうか判断できない解答が 2.8%、作図に使った線が垂直になっていない解答が 2.6%、その他の解答が 48.2%、無答率が 30.4%という結果でした。過去に出題した点 P から直線 l に垂線を作図する問題の正答率では 70%を超えているので、この問題では $\triangle ABC$ の高さが頂点 A から BC の延長上に引いた垂線であることの理解ができていないと考えられます。

3 指導法改善のヒント

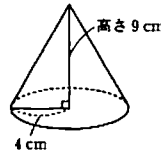
- (1) 図をかくという操作は、直感的な見方や考え方を深め、図形についての論理的な考察を促すということで大変意義があります。日頃の授業でも問題の図をノートにかかせるなど作図を身近なものとして、確実に身に付けさせる指導を心掛けることが大切です。
- (2) 提示された図形の配置や形などが変わっても、基本的な作図を活用できるように指導することが大切です。

6 表現・処理

立体と展開図の関係を理解させ、体積の求め方を指導しましょう。

1 問題の概要

- 18 右の図の円錐の体積を求めなさい。ただし、円周率は π とします。



正答率 16.9%

2 正答率が低い要因

$144\pi\text{cm}^3$ の解答が 5.5%、 $24\pi\text{cm}^3$ の解答が 1.6%、その他の解答が 45.8%、無答率が 30.2%という結果でした。この結果と過去の類似問題、円柱の見取図から体積を求める問題（正答率 35.0%）、三角柱の展開図から体積を求める問題（正答率 29.9%）から、柱体の体積が直方体の体積の求め方（縦×横×高さ）を底面積と高さの積を表したものとして見直している考え方や、錐体の体積は柱体の体積の三分の一であることが十分に身に付いていないと考えられます。

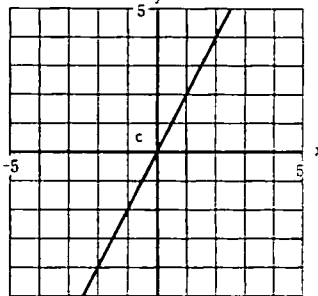
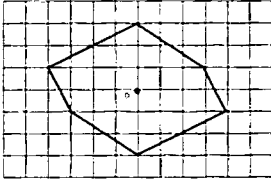
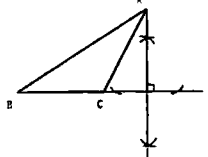
3 指導法改善のヒント

- (1) 小学校での立方体や直方体の体積を求めることを受け、中学校では、柱体の体積が底面積と高さの積として求められることを学習します。角柱や円柱を、その底面の多角形や円が高さの分だけ平行に運動してできた立体と見る見方と関連させて理解させることが重要となります。
- (2) 錐体は中学校で初めて扱う立体なので、体積は底面積と高さが等しい柱体の体積の三分の一であることを、模型を用いたり、実験による測定を行うなどして数学的活動を十分に行い、実感を伴って理解できるようにすることが大切です。
- (3) 柱体、錐体の求積についての学習は、小学校で学んだことを基にして、学校の指導の在り方を研究することと、生徒の学び直しの機会を意図的に設けることが必要です。

平成19年度宮城県学習状況調査 中学校2年 数学

問題番号	通し番号	出題形式	主観点	問題内容	出題のねらい	
1	(1)	1	記述 表現・処理	正負の数	正負の数の四則の混じった計算ができる。	
	(2)	2			正負の数の分数を含む除法の計算ができる。	
	(3)	3			正負の数の累乗を含む乗法の計算ができる。	
	(4)	4		文字式の計算	分配法則を含む文字式の計算ができる。	
	(5)	5			単項式の乗法の計算ができる。	
2	6	選択	知識・理解	文字式の計算	文字を用いた式の表し方を理解している。	
3	(1)	7	記述 表現・処理	一次方程式	一元一次方程式を解くことができる。	
	(2)	8		文字式の計算	等式を目的に応じて変形することができる。	
	(3)	9	選択 知識・理解	二元一次方程式	二元一次方程式の解の意味を理解している。	
4	(1)	10	記述 表現・処理	連立方程式の解き方	簡単な連立方程式を解くことができる。	
	(2)	11			簡単な連立方程式を解くことができる。	
5	12	記述	表現・処理	連立方程式の利用	文章題から連立方程式を立式することができる。	
6	(1)	13	記述	見方考方	文字の利用	具体的な問題状況を理解し、問題を解決することができる。
	(2)	14				具体的な問題状況を解決するために、いろいろな見方や考え方をし、文字を用いて数量関係を式に表すことができる。
7	(1)	15	選択 知識・理解	見方考方	文字の利用	文字を使って数量関係を式で表すことができる。
	(2)	16	論述			文字式を用いて、ある条件を満たす3つの整数の和が3の倍数になることを説明することができる。
8	17	記述	表現・処理	比例・反比例する量	1組の x , y の値が与えられたとき、比例の式を求めることができる。	
9	18	記述	表現・処理	比例・反比例する量	y が x に反比例するとき、表から x に対応する y の値を求めることができる。	
10	19	選択	知識・理解	比例・反比例のグラフ	反比例のグラフの特徴を理解している。	
11	(1)	20	選択 知識・理解	見方考方	比例・反比例のグラフ	座標の意味を理解している。
	(2)	21	記述 表現・処理			比例のグラフをかくことができる。
12	(1)	22	記述	見方考方	比例の利用	グラフを利用して問題を解決することができる。
	(2)	23				グラフを利用して問題を解決することができる。
13	24	記述	表現・処理	平面図形	点対称な図形を完成させることができる。	
14	25	記述	表現・処理	平面図形	条件を満たす垂線を作図することができる。	
15	26	選択	知識・理解	空間図形	回転体の見取図を見て、回転する前の平面図形を判断することができる。	
16	(1)	27	選択 知識・理解	直線や平面の位置	空間における2直線の位置関係を理解している。	
	(2)	28			空間における直線と平面の位置関係を理解している。	
17	29	記述	表現・処理	空間図形	円錐を展開したときにできる扇形の弧の長さを求めることができる。	
18	30	記述	表現・処理	空間図形	円錐の体積を求めることができる。	

平成19年度宮城県学習状況調査 中学校2年 数学

通し番号	予想正答率	県正答率	誤答率	無答率	市町村正答率	正答
1	70比	72.7	25.4	1.8	56.3 ~ 83.6	-13
2	60比	61.6	31.6	6.7	48.8 ~ 77.5	9
3	70比	77.4	19.9	2.7	65.4 ~ 100.0	-45
4	70比	66.1	28.1	5.8	53.6 ~ 100.0	$x+3y$ または $3y+x$
5	60比	53.6	38.9	7.5	38.8 ~ 70.0	$-30xy^2$ または $-30y^2x$
6	40比	34.6	63.1	2.3	21.3 ~ 50.0	④ (注)「4」も可。
7	70比	79.7	13.7	6.6	65.1 ~ 91.8	$(x=)4$
8	60比	54.2	42.4	3.4	30.4 ~ 70.0	2
9	60	62.4	31.9	5.7	50.4 ~ 80.0	3
10	60	70.1	17.0	12.9	52.8 ~ 90.0	$x=2, y=-3$
11	50	54.6	25.9	19.5	35.0 ~ 70.0	$x=-3, y=-2$
12	40	37.5	36.9	25.6	20.0 ~ 60.0	$x+y=158, 0.25x+0.1y=29$ (注)方程式の順序は入れ替わってもよい。係数は分数で表してもよい。
13	40比	40.5	49.0	10.6	30.0 ~ 50.4	16
14	30比	15.1	55.0	29.9	5.0 ~ 30.0	$3n+1$ または $1+3n$
15	40比	43.4	50.7	5.9	35.6 ~ 52.5	2
16	30比	24.6	40.4	35.0	5.0 ~ 40.0	(最も大きい数は) $n+7$ (と表すことができる。) (それらの和は、) $(n-7)+n+(n+7)=3n$
17	60	41.3	37.1	21.5	24.0 ~ 58.0	$y=-4x$
18	70	47.0	44.3	8.7	22.5 ~ 66.2	6
19	60	71.4	23.2	5.4	58.4 ~ 85.0	2
20	70比	80.1	17.8	2.2	64.0 ~ 92.2	1
21	70比	58.6	32.6	8.8	32.0 ~ 90.0	 <p>(注) $y=2x$ のグラフを正しく書いていること。直線はフリーハンドでもよい。</p>
22	50P	50.6	35.2	14.3	22.5 ~ 80.0	毎分75m
23	50P	45.5	39.1	15.4	34.4 ~ 60.0	3分
24	50比	45.7	47.6	6.7	20.0 ~ 80.0	 <p>(注) 点対称な図形を正しく書いていること。直線はフリーハンドでもよい。</p>
25	40	15.9	53.6	30.4	5.6 ~ 60.0	 <p>(注) 垂線を正しく作図している。フリーハンドでコンパスや定規を使ったように書いてもよい。</p>
26	70	69.8	26.0	4.2	53.8 ~ 80.0	4
27	50比	54.5	41.1	4.5	42.4 ~ 67.5	4
28	60比	48.8	46.5	4.7	31.5 ~ 70.0	1
29	40比	26.8	35.5	37.7	12.5 ~ 50.0	10π (cm)
30	30	16.9	52.9	30.2	3.8 ~ 30.0	48π (cm ³)

注) 予想正答率の欄にある「比」は、経年比較問題であることを示す。
また、「P」は、問題文等の示す情報を整理して読み解く力をみる問題であることを示す。

授 業 改 善 の ヒ ン ト 中学2年 理科

1 県全体の状況

(1) 正答率60%以上の問題の割合 8.6%

問題数	正答率60%以上		正答率40%以上60%未満		正答率40%未満	
35問中	3問	8.6%	19問	54.3%	13問	37.1%

(2) 観点別正答率

No	観 点	正答率
1	科学的な思考	46.1%
2	観察、実験の技能・表現	50.4%
3	自然事象についての知識・理解	35.7%

(3) 出題形式別正答率

No	出 題 形 式	正答率
1	選択	44.0%
2	記述	45.0%
3	論述	14.9%

(4) 問題内容別正答率

No	問 題 内 容	正答率	No	問 題 内 容	正答率
1	光の性質	48.8%	10・11	植物のからだのつくりとはたらき	47.3%
2	音の性質	33.1%	12	植物のなかま	36.9%
3	力と圧力	56.9%	13	動物の行動とからだのしくみ	53.8%
4	物質の性質と状態変化	52.3%	14	地層	29.9%
5	気体の性質	19.3%	15	火成岩	30.7%
6	水溶液の性質	32.0%	16	地震	33.3%
7・8	回路と電流・電圧	47.5%	17A	電流	62.6%
9	観察のしかた	42.5%	17B	動物の世界	71.6%

2 定着が良好な領域や単元等

(1) 電流

平均正答率は62.6%である。このうち、誘導電流を強くする方法を考える問題の正答率は69.0%であり、これまでの類似問題の正答率(H17:51.7%, H16:50.4%)より高くなっている。

17A

(2) 動物の世界

平均正答率は71.6%である。消化の働きについての問題の正答率は74.9%である。17B

3 指導法の工夫改善が必要な領域や単元等

(1) 音の性質

振動数や振幅を理解し、波形を描く問題の正答率は26.3%である。2

(2) 気体の性質

平均正答率は19.3%であり、特に、実験条件と結果からアンモニアの性質を指摘する問題の正答率は5.5%である。5

(3) 水溶液の性質

酸とアルカリの中和の反応を指摘する問題の正答率は47.4%であるが、溶液の性質を考え、それに対する金属の反応を指摘する問題の正答率は16.5%である。6

(4) 地層

露頭で見られる地層の特徴から堆積環境の変化を指摘する問題の正答率は27.0%である。14

(5) 火成岩

平均正答率は30.7%であり、深成岩の成因についての論述問題の正答率は24.4%である。15

(6) 地震

地震規模と地震のゆれの関係を指摘する問題の正答率は21.4%である。16

1 科学的思考

具体的な操作等をとおして資料や観察、実験の結果を読み取らせる活動を充実させましょう。

1 問題の概要

- 2 (1) 図1のモノコードの弦のCの部分をはじいたときの音をマイクでひろい、コンピュータの画面に表示したところ図2のようになりました。(中略)
図1と同じ状態で、弱くはじいたとき、コンピュータの画面にはどのような波形が観察されますか。初めの波形を参考にして、図2に書きなさい。

図1

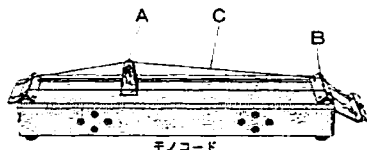
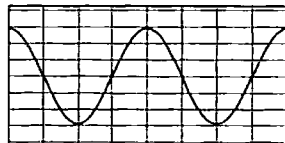


図2



正答率
26.3%

2 正答率が低い要因

- (1) 基準となる波形をもとにして実際に書き表すことができないことから、振動数、振幅についての基礎的な知識を活かして、表現する力が不足していると考えられます。

3 指導改善のヒント

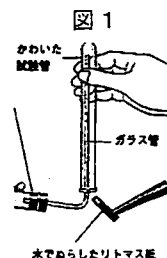
- (1) 波形についての時間、振動数、振幅の基礎的な理解を図り、具体的な操作や作業をとおして、資料や実験結果を読み取らせる活動を充実させることが大切です。
(2) 波形の疎密を感覚的にとらえるだけでなく、オシロスコープやコンピュータなどを利用して振動数や振幅を具体的に比較し、実際に描くなどして理解を深める工夫が必要です。

2 知識・理解

事物・現象をとらえる多様な視点をもたせる指導を充実させましょう。

1 問題の概要

- 5 (1) 図1のように、塩化アンモニウムと水酸化カルシウムの混合物を熱して気体のアンモニアを発生させました。試験管の口に、水でぬらした赤色リトマス紙とかわいた赤色リトマス紙を近づけたところ、水でぬらした赤色リトマス紙だけが青く変わりました。これはアンモニアがどのような性質をもっているからですか。アンモニアの性質について、簡潔に書きなさい。



正答率
5.5%

2 正答率が低い要因

- (1) 「アンモニアが水にとけやすい」ことのみでの解答は16.4%、「水にとけてアルカリ性を示す」ことのみでの解答は15.6%でした。実験結果をいろいろな視点から考え、整理する力が不十分と考えられます。
(2) その他の誤答28.1%、無解答34.4%から、実験結果をまとめ表現させる活動を十分していないと考えられます。

3 指導改善のヒント


- (1) この実験では、「水でぬらしたリトマス紙、かわいたリトマス紙」の反応の違いからアンモニアの水に対する溶け方の性質に着目させるなど、多様な視点で事象をとらえようとする態度を育てるとともに、自分の考えを表現させる活動の充実を図ることが大切です。
- (2) 観察、実験の方法について、知識や科学的な考え方と関連付け、理解を深めさせる指導が必要です。

3 科学的思考	実験条件や結果を整理し、考察する活動を充実させましょう。
----------------	------------------------------

1 問題の概要

6 (2) マグネシウムリボンを入れたときに水素が発生する水溶液はア～ウのどれですか。正しいものを次の1～4から選び、その番号を書きなさい。

1 ア	2 イ	3 ウ	4 イとウ
うすい塩酸 [cm]	3	4	5
うすい水酸化ナトリウム水溶液 [cm]	4	6	8



正答率
16.5%

2 正答率が低い要因

(1) 塩酸の量の増加だけに着目したと思われる誤答が17.7%、題意の理解が不十分と思われる誤答が22.2%あり、事象や問題を整理してとらえる力が十分に身に付いていないと考えられます。

3 指導改善のヒント

- (1) 水溶液に含まれるイオンをモデル化するなど、条件や混合した水溶液の性質を整理して考えさせる工夫が望まれます。
- (2) 中和によって生活用水や農業用水を確保している例を取り上げるなど、事象提示の段階で要因や原因に対する問題意識を高め、身近な問題と関係付けて見方を身に付けさせる工夫が大切です。

4 知識と理解	事象についての成因や要因を対比し、表現させる活動を充実させましょう。
----------------	------------------------------------

1 問題の概要

15 (2) 図2のようなつくりをもつ火成岩は、マグマがどのようなところで、どのような冷え方をして固まったのでしょうか。「マグマが」ということばに続けて、簡潔に書きなさい。

図1

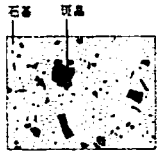



図2



正答率
24.4%

マグマが ()

2 正答率が低い要因

- (1) 火山岩の成因を解答した誤答19.7%や無解答21.2%を含めた誤答が75.6%であり、火山岩と深成岩の成因の違いについての知識・理解が十分ではないと考えられます。
- (2) 火成岩はマグマが冷えて固まったものである、ということについて書けない生徒が全体の46.6%おり、火成岩についての知識・理解が十分ではないと考えられます。また、火山岩及び深成岩の成因について比較して考えたり、表現する活動機会が少ないことが考えられます。

3 指導改善のヒント

- (1) 建物の石材、墓石などに火成岩が利用されていることなどを話題としたり、偏光板の間に鉱物の薄片を挟んで観察させるなど、火成岩についての興味、関心を高め、さらに野外の産状に関する情報提供などにより組織や成因についての追究意欲を高める工夫が大切です。
- (2) 火成岩の観察では、ミョウバンの結晶のでき方と火成岩のつくりとを関連付けて考えさせるなど、成因と組織の違いを意識できるような考察のさせ方を工夫することが大切です。また、比較して発表させるなど、理解を深める手立てが必要です。
- (3) 火成岩の成因について、物質名や場所、時間などのキーワードを情報として提示し、その情報を基に、生徒が自分自身の考えをまとめる機会と時間を確保するなど、論述する力を高める工夫が必要です。

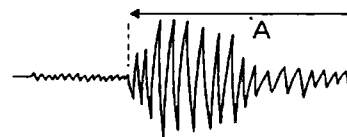
5 科学的思考

日常生活との関連を図った指導を工夫しましょう。

1 問題の概要

16 (2) この地震のマグニチュードは6.0でした。同じ震源でマグニチュード7.0の地震が起こった場合、初期微動継続時間とゆれの記録はどのようになりますか。次の1～4から選び、その番号を書きなさい。

- 1 初期微動継続時間は長くなり、
ゆれは大きくなる。
- 2 初期微動継続時間は短くなり、
ゆれは大きくなる。
- 3 初期微動継続時間は長くなり、ゆれは小さくなる。
- 4 初期微動継続時間は変わらず、ゆれは大きくなる。



正答率
21.4%

2 正答率が低い要因

- (1) マグニチュードの大きさによって初期微動継続時間が変わると考えていることが誤答(76.8%)の大きな原因であり、地震規模とゆれの関係について理解していないと考えられます。
- (2) 図1のAが「主要動」であることを理解していない生徒が54.8%おり、初期微動と主要動の特徴について混同していることも要因として考えられます。

3 指導改善のヒント

- (1) 地震のゆれの伝わり方を調べる実習では、初期微動継続時間と震源からの距離との関係をグラフに表すなど、グラフ作成をとおして実感を伴った理解をさせることが大切です。
- (2) シミュレーションソフトの活用を図るなどして地震計の原理を十分に理解させ、地震のゆれの記録についての基本的な理解を図ることが望まれます。
- (3) 地震警報システムの話題を取り上げ防災の意識を高めるなど、日常生活との関連を図った指導を工夫することにより、科学的な見方や考え方を育てることが大切です。

平成19年度宮城県学習状況調査 中学校2年 理科

問題番号	通し番号	出題形式	主観点	問題内容	出題のねらい	
1	(1)	1	選択	思考	光の性質	光の屈折によって、水中にある物体が実際よりも縮んで見えることを指摘できる。
	(2)					2
2	(1)	3	記述	思考	音の性質	小さい音の波形を表すことができる。
	(2)	4	選択	知識理解		振動する物体の長短と音の関係を指摘できる。
3	(1)	5	選択	思考	力と圧力	物体にはたらく力とつりあう力を指摘できる。
	(2)					6
4	(1)	7	記述	技能表現	物質の性質と状態変化	メスシリンダーで液体の体積を正しく読み取ることができる。
	(2)	8	選択	思考		混合物の蒸留における温度変化のグラフから発生する物質を指摘できる。
5	(1)	9	論述	知識理解	気体の性質	実験結果からアンモニアの性質について説明できる。
	(2)	10	選択			酸素を発生させるために必要な物質を指摘できる。
6	(1)	11	記述	知識理解	水溶液の性質	酸とアルカリを混ぜると必ず中和が起きることを指摘できる。
	(2)	12	選択	思考		酸とアルカリを混ぜると互いの性質が打ち消されることを指摘できる。
7	(1)	13	記述	技能表現	回路と電流・電圧	回路の各部の電圧を測定する方法を指摘できる。
	(2)	14		思考		直列回路の電圧の関係を式で表すことができる。
8	(1)	15	記述	技能表現	回路と電流・電圧	誤差を含む測定値をグラフにかき表すことができる。
	(2)	16	選択	思考		オームの法則を適用して、金属線の電気抵抗の値を求めることができる。
9	(1)	17	選択	技能表現	観察のしかた	顕微鏡の正しい操作方法を指摘できる。
	(2)	18	技能表現	顕微鏡の正しい調節の仕方を指摘できる。		
10	(1)	19	記述	知識理解	植物のからだのつくりとはたらき	胚珠を包み、やがて果実になる子房を指摘できる。
	(2)	20	選択	技能表現		蒸散量を調べる枝葉の条件を指摘できる。
11	(1)	21	記述	知識理解	植物のからだのつくりとはたらき	植物が光合成によって、二酸化炭素を吸収していることを指摘できる。
	(2)	22	選択			植物が呼吸によって、二酸化炭素を発生していることを指摘できる。
12	(1)	23	選択	知識理解	植物のなかま	双子葉類の茎と根の特徴を指摘できる。
	(2)	24	記述			平行脈を持つ植物のなかまが単子葉類であることを指摘できる。
13		25	選択	思考	動物の行動とからだのしくみ	刺激に対する魚の反応を指摘できる。
14	(1)	26	選択	思考	地層	地層の堆積環境の変化を指摘できる。
	(2)	27		知識理解		地質年代（新生代）の示準化石を指摘できる。
15	(1)	28	記述	知識理解	火成岩	火山岩の組織の特徴から、斑状組織を指摘できる。
	(2)	29				論述
16	(1)	30	記述	知識理解	地震	地震のゆれの記録から主要動を指摘できる。
	(2)	31	選択	思考		マグニチュードと初期微動継続時間、ゆれの大きさとの関係を指摘できる。
17 A	(1)	32	選択	思考	電流	同種類の電気を帯びた物体同士がしりぞけ合うことを指摘できる。
	(2)	33		技能表現		誘導電流を強くする方法を指摘できる。
17 B	(1)	34	選択	思考	動物の世界	動物が持っている共通の特徴を指摘できる。
	(2)	35		技能表現		だ液によるデンプンの消化を調べる実験の条件を指摘できる。

平成19年度宮城県学習状況調査 中学校2年 理科

通し番号	予想正答率	県正答率	誤答率	無答率	市町村正答率	正答
1	60	52.7	46.6	0.6	43.9 ~ 70.0	2
2	50	44.8	54.6	0.6	22.5 ~ 51.5	2
3	50P	26.3	51.2	22.5	10.0 ~ 47.5	 (注)振幅が小さくなり、振動数が変わらなければ可。
4	60比	40.0	59.0	1.0	20.0 ~ 47.5	4
5	50	56.2	43.1	0.7	34.9 ~ 70.0	1
6	70	57.6	41.8	0.7	42.4 ~ 67.5	4
7	50比	56.2	40.9	2.9	36.8 ~ 78.8	59.5(cm ³) (注)ただし、有効数字3桁で、59.4~59.6の解答は正解とする。
8	70P	48.3	50.2	1.4	39.3 ~ 60.0	3
9	50P	5.5	60.1	34.4	0.0 ~ 27.3	(例)非常に水にとけやすく、水にとけるとアルカリ性を示す。
10	70	33.2	64.0	2.8	18.4 ~ 50.0	CとF または FとC (注)完答
11	60	47.4	15.4	37.2	24.4 ~ 71.0	中和 (注)ひらがなも可。
12	50P	16.5	79.3	4.2	9.2 ~ 40.0	1
13	70比	55.6	38.4	6.0	41.0 ~ 67.3	(+端子)④(-端子)③ (注) (+端子)4 (-端子)3も可。
14	50比P	46.8	36.3	16.9	35.7 ~ 64.4	$V_3 = V_1 + V_2 / V_1 + V_2 = V_3$ (注) V_3 が V_1 と V_2 の和に等しくなる数式であれば可。式の変形による $V_1 = V_3 - V_2$ や $V_2 = V_3 - V_1$ も可。
15	50比P	53.1	38.6	8.2	10.0 ~ 87.5	 (注)正確な値で5つの測定点がプロットされていること。原点から、4つの点の最も近くを通り、グラフの右上まで達する直線が書かれていること。以上2点を満たしていれば、フリーハンドでも可。
16	60比P	34.4	61.4	4.2	19.7 ~ 55.9	4
17	70P	32.3	66.8	1.0	20.8 ~ 60.0	4
18	50	52.7	46.2	1.1	42.6 ~ 65.1	3
19	60	55.0	28.5	16.4	37.2 ~ 75.2	子房
20	50P	29.0	68.7	2.3	23.9 ~ 42.5	2
21	60	45.7	39.9	14.4	32.5 ~ 54.2	①光合成 ②二酸化炭素 (注)完答。ひらがなも可。②はCO ₂ も可。
22	70P	59.6	37.8	2.6	50.0 ~ 72.5	3
23	70	46.3	51.5	2.2	30.0 ~ 55.3	3
24	60	27.5	44.6	27.9	15.8 ~ 54.2	単子葉類 (注)単子葉植物、単子葉も可。ひらがなも可。
25	70	53.8	44.9	1.3	30.0 ~ 70.5	1
26	60P	27.0	71.0	2.0	18.7 ~ 41.1	2
27	50	32.9	65.2	2.0	21.8 ~ 50.0	3
28	50比	37.1	28.4	34.5	13.8 ~ 76.0	斑状(組織) (注)ひらがなも可。
29	50比P	24.4	54.4	21.2	6.6 ~ 50.4	(例)(マグマが)地下深くで、長い時間をかけて冷えて固まった。(注)地下の深いところで、ゆっくりと冷えて固まったという内容が書いてあれば可。
30	70	45.2	31.8	23.0	13.8 ~ 78.3	主要動 (注)ひらがなも可。
31	70	21.4	76.3	2.3	14.8 ~ 40.0	4
32	70P	56.3	41.9	1.8	40.0 ~ 75.0	2
33	60	69.0	28.6	2.4	41.2 ~ 89.2	3
34	80	68.2	26.5	5.3	55.0 ~ 83.7	1
35	60P	74.9	53.6	5.9	68.8 ~ 86.0	2 または 3

注) 予想正答率の欄にある「比」は、経年比較問題であることを示す。
 また、「P」は、問題文等の示す情報を整理して読み解く力を見る問題であることを示す。

授 業 改 善 の ヒ ン ト 中 学 2 年 英 語

1 県全体の状況

(1) 正答率 60%以上の問題の割合 50.0%

問題数	正答率 60%以上		正答率 40%以上 60%未満		正答率 40%未満	
30問	15問	50.0%	12問	40.0%	3問	10.0%

(2) 観点別正答率

No	観 点	正答率
1	表現の能力	37.9%
2	理解の能力	66.6%
3	言語や文化についての知識・理解	57.0%

(3) 出題形式別正答率

No	出 題 形 式	正答率
1	選択	64.5%
2	記述	10.3%
3	論述	37.9%

(4) 問題内容別正答率

No	問 題 内 容	正答率	No	問 題 内 容	正答率
1	リスニング (対話の流れ)	72.4%	6	文法事項の理解	60.6%
2	リスニング (絵を選ぶ)	80.4%	7	日常会話の読み取り	61.4%
3	リスニング (会話内容)	79.9%	8	単語の並べかえによる英作文	56.3%
4	長文 (会話文) の読み取り	40.4%	9	3文以上の英作文	37.9%
5	長文 (あらすじ) の読み取り	51.0%			

2 定着が良好な領域

(1) 【聞くこと】対話の流れ、会話の内容のキーワードを聞き取り、正しい答えを選択する問題。

②(2) ③(3) ③(4)

(2) 【読むこと】前後の文脈から対話の一部の適切な内容を選択する問題。④(4)

(3) 【書くこと】ものの呼び方を答える場面で、正しい語順に並べかえる問題。⑧(2)

3 指導法の工夫改善が必要な領域

(1) 【聞くこと】会話の流れから、キーワードを聞き取り、正しい答えを選択する問題。①(2) は、正答率は62.7%であるが、さらに指導の工夫改善が望まれる。

③(1)の正答率は62.4%であったが、リスニングの問題の中では、最も正答率が低くなっている。①(2) ③(1)

(2) 【読むこと】長文のあらすじや長文の一部を理解し、問いに対する正しい内容を読み取る問題については①及び②のとおりである。

① 前後の文脈から対話文の一部を理解する問題については、④(2)の正答率は27.0%、④(3)の正答率は10.3%である。④(2)(3)

② 長文の概要・要点の一部を理解し、正しい題及び内容を選択する問題の正答率は46.4%である。⑤(1)

(3) 【書くこと】

① 場面を理解し、正しい語順で How many DVDs do you ~? 及び Why did you go there ~? を書く問題。How many ~?については、正答率は40.2%である。⑧(1)(3)

② 1つのテーマに沿って、3文以上でまとめた内容の英語を書く自由英作文の問題の正答率は25.7%である。⑨

1 聞くこと

ポイントを絞って聞き取らせる指導を工夫しましょう。

1 問題の概要

<p>1 (2) 好きなスポーツの話の流れの中で、「ここでテニスをしましょう」という誘いの文を理解し、それに最も適する All right. を選択して答える。 Judy : Let's play tennis here. Kenta: <input type="text"/> 1 Me, too. 2 Here you are. 3 All right. 4 That's right.</p>	正答率 62.7%
<p>3 (1) タケシの毎朝の起床時刻(6時30分)を聞き取る。 Ms. Green : Takeshi, what time did you get up this morning? Takeshi : I got up at five thirty, but I usually get up at six thirty every morning. 1 5時 2 5時30分 3 6時 4 6時30分</p>	正答率 62.4%

2 正答率が低い要因

- (1) 話された英文を正しく理解できていないことや、聞き取ったことに対する正しい応答ができないことが考えられます。
- (2) 毎日の起床時刻(6時30分)を答える問題でしたが、今朝の起床時刻(5時30分)と答えた生徒の割合は34.0%となっています。英文を最後まで注意深く聞き、大切な部分や数字が何を表しているのかを聞き取る練習が不十分であると考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) 英文を正しく理解し、聞き取ったことに応答できるようにするためには
 - ① 1回目は、大まかな内容を理解させるためのポイントを示しながら聞かせ、2回目には、文字や絵などを提示し聞き取らせる活動を取り入れましょう。
 - ② JTEとALTとの対話や生徒同士の対話、生徒によるスピーチを聞かせるだけでなく、その内容についての確認を全体で行いましょう。
- (2) キーワードに注意して、聞き取らせるためには
 - ① キーワードや「いつ、だれが、どこで、何を、どのように」などを示す英語に注意して、「メモ」をとりながら聞き取らせましょう。

2 読むこと

内容把握のためのヒントとなる問いを与えて読ませましょう。

1 問題の概要

<p>5 (1) 作文の題として、最も適切な題(3 オーストラリアでの体験)を選び、その番号を書く。 1 オーストラリアの季節 2 オーストラリアの小学校 3 オーストラリアでの体験 4 オーストラリアのおばさんとおじさん</p>	正答率 46.4%
---	--------------

2 正答率が低い要因

- (1) 「オーストラリアの小学校」と誤答した生徒の割合が30.5%となっています。文全体の概要を読み取ったり、必要な情報を正確に読み取ったりすることができないことが考えられます。
- (2) 一文レベルでの意味はとらえることができるが、文全体の内容を的確に読み取ることができず、その状況で使用される表現が、十分身に付いていないと考えられます。

3 指導法改善のヒント

(1) 読み取りの力を養うためには

- ① 英文を読む時間を確保し、事前に内容把握のためのヒントとなる質問を与えましょう。
- ② 既習の語が使われている少し長めの英文に触れさせ、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えましょう。
- ③ 対話文やスキットを読み取らせ、T or FやQ&Aを行い、内容把握ができているか確認しましょう。

3 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ WH疑問文とそれに対応する応答に慣れさせましょう。 ・ 動詞の三単現の s(es)の付け方など動詞の変化について、文を書いて練習させましょう。
----------------	--

1 問題の概要

<p>4 (2) 対話文の()内に入る適切な語(4 How)を選ぶ。 Yum : Really? () do you study kanji? Jim : I use this book. It's a very good teacher for me. 1 What 2 When 3 Who 4 How</p>	<p>正答率 27.0%</p>
<p>4 (3) 対話文の内容についての問に適切に答えるために()に1語ずつ書く。 (問い) What does Jim study every day? (答え) He ()() every day. 正解 He (studies)(Japanese) every day.</p>	<p>正答率 10.3%</p>

2 正答率が低い要因

- (1) 疑問詞「how」「who」「what」「when」などを使ってどんなことを尋ねているのか、またそれに応答すべきことはどんなことなのかを十分に理解できていないと考えられます。
- (2) 三単現の s (es) を付ける動詞の変化を十分に理解できていないので、正しく文を書くことができていません。

3 指導法改善のヒント

(1) WH疑問文とその応答の仕方を定着させるためには

- ① 授業での Warm-Up において、生徒と対話しながら繰り返し練習させましょう。
- ② 本文の内容理解のための Q&A では、疑問詞に注意させながら応答させましょう。

(2) 三単現の s (es) を付ける動詞の変化について書けるようにするためには

- ① 三単現の s (es) を付ける動詞の変化については、動詞の変化についての発音練習だけでなく、文の中で理解し表現できるように話させたり、繰り返し書かせたりしましょう。

4 書くこと	yes/no で答えられる疑問文と Why や How などの疑問詞で始まる疑問文の作り方の違いの理解を徹底させましょう。
---------------	---

1 問題の概要

<p>8 (1) ()内の語句を並べかえる。(How many DVDs do you have)? Mr. Green: Oh, you have a lot of DVDs! (you / DVDs / have / do / how many)? Keiko : Well, I have about eighty.</p>	<p>正答率 40.2%</p>
---	----------------------

<p>8 (3) () 内の語句を並べかえる。(Why did you go there) ?</p> <p>Keiko : I went to Australia last month. Mr. Green: Really? (did / go / there / why / you) ? Keiko : To study English.</p>	<p>正答率 49.5%</p>
---	----------------------

2 正答率が低い要因

- (1) yes/no で答えられる疑問文と Why や How などの疑問詞で始まる疑問文の作り方の違いが十分に理解されていないと考えられます。8(1)は、経年比較の問題ですが、依然として、Do you ~? の語順で始まる文で答える生徒が 22.3% となっています。また、8(3)は、Did you ~? の語順で始まる文で答える生徒が 29.3% となっています。
- (2) 疑問詞「how」「why」「where」「when」などの意味や、「Why」や「How」などの疑問詞で始まる疑問文の作り方を十分理解していないと考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) Why や How などの疑問詞で始まる疑問文を作るためには
 - ① yes/no で答えられる疑問文と Why や How などの疑問詞で始まる疑問文の作り方の違いについて繰り返し指導し、小テストで書かせるなど意図的、段階的な指導で定着を図りましょう。
 - ② 疑問詞「how」「why」「where」「when」などの意味については、絵などを使い、視覚的に理解させましょう。

<h2 style="margin: 0;">4 書くこと</h2>	<p>テーマに沿ってまとまった英文を書く機会を増やしましょう。</p>
------------------------------------	-------------------------------------

1 問題の概要

<p>9 (2) 英語の授業で、「自分の大切なもの」「自分の大切な人」について、<u>実物や写真を見せながら、発表する文を3文以上で書く。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・This is ~ で書き始める。 ・「どのようなもの(人)か」「なぜ大切なのか」などの具体的な説明を書く。 	<p>正答率 25.7%</p>
--	----------------------

2 正答率が低い要因

- (1) 一文レベルの英文は書くことはできても、その英文の内容について、詳しく説明したり自分の考えや気持ちなどを述べたりする基本構文や慣用句の理解が十分定着していないことが考えられます。
- (2) 無解答率が 44.4%と依然として高いことから、自分の考えを英語で表現することになれていないことが考えられます

3 指導法改善のヒント

- (1) 3文以上のまとまった内容の英文を書くためには
 - ① 言語材料など学年の系統性を踏まえ、小テストで書かせるなど意図的、段階的な指導を行いましょう。
 - ② 家族や学校紹介等、身近なテーマについて書く課題を与え、授業中に全体で作文する場面を設け、発表させるなど、「話すこと」と関連させて指導に当たり、自分の考えや気持ちを他者に伝えようとする、姿勢づくりを大切にしまししょう。
 - ③ 慣用句や基本構文などを自分の表現したい英文に取り入れることができる場面を設け、継続的な指導を行い、基本的な語彙や構文の定着を図りましよう。
 - ④ 自分の表現したい内容について、まとまりのある英文で表現できるように、内容の関連に留意し、順序を整理したり、ふさわしい表現を取り入れたりとすることができるよう、教科書の英文の要約文を書かせるなど、「読むこと」と関連させて指導に当たりましよう。

平成19年度宮城県学習状況調査 中学校2年 英語

問題番号	通し番号	出題形式	主観点	問題内容	出題のねらい
1	(1) 1	選択	理解	リスニング (対話の流れ)	会話(図書館で)の流れを理解し,正しい表現を選択できる。
	(2) 2				会話(好きなスポーツの話)の流れを理解し,正しい表現を選択できる。
	(3) 3				会話(好きな食べ物の話)の流れを理解し,正しい表現を選択できる。
2	(1) 4	選択	理解	リスニング (絵を選ぶ)	キーワード(日付と行動)を聞き取り,正しい表現を選択できる。
	(2) 5				キーワード(グリーン先生がいつ東京に行ったのか)を聞き取り,正しい答えを選択できる。
	(3) 6				キーワード(部屋にあるものの場所)を聞き取り,正しい表現を選択できる。
3	(1) 7	選択	理解	リスニング (会話内容)	キーワード(タケシの起床時刻を)を聞き取り,正しい答えを選択できる。
	(2) 8				キーワード(グリーン先生がいつ東京に行ったのか)を聞き取り,正しい答えを選択できる。
	(3) 9				キーワード(タケシの兄弟姉妹の数)を聞き取り,正しい答えを選択できる。
	(4) 10				キーワード(スキーがうまくなる人)を聞き取り,正しい答えを選択できる。
4	(1) 11	選択	理解	長文(会話) の読み取り	前後の文脈から対話文の一部(お礼の言い方)を理解できる。
	(2) 12		言語		前後の文脈から対話文の一部(適切な疑問詞)を理解できる。
	(3) 13	記述	理解		前後の文脈から対話文の一部(正しい内容)を理解し,正しい英文が完成できる。
	(4) 14				前後の文脈から対話文の一部(正しい内容)を理解することができる。
5	(1) 15	選択	理解	長文(あらすじ) の読み取り	長文の概要・要点を理解し,正しい題をつけることができる。
	(2) 16				長文の一部を理解し,正しい内容を読み取ることができる。
	(3) 17				長文の一部を理解し,正しい内容を読み取ることができる。
6	(1) 18	選択	言語	文法事項の 理解	文法事項(三人称・現在進行形)を理解し,正しい対話文を完成できる。
	(2) 19				文法事項(一人称・未来時制 (be going to))を理解し,正しく対話文を完成できる。
	(3) 20				文法事項(三人称・一般動詞の過去の疑問文)を理解し,正しい対話文を完成できる。
	(4) 21				文法事項(三人称・過去進行形)を理解し,正しい対話文を完成できる。
7	(1) 22	選択	言語	日常会話の 読み取り	対話の流れ(電話の場面)を理解し,正しい応答文を選択できる。
	(2) 23				対話の流れ(教室の場面)を理解し,正しい応答文を選択できる。
	(3) 24				対話の流れ(放課後,教室の場面)を理解し,正しい応答文を選択できる。
	(4) 25				対話の流れ(帰り道の場面)を理解し,正しい応答文を選択できる。
8	(1) 26	選択	言語	単語の並べ かえによる英 作文	場面(相手の持ち物の数を尋ねる場面)を理解し,正しい語順で書くことができる。
	(2) 27				場面(ペットのネコの呼び方を答える場面)を理解し,正しい語順で書くことができる。
	(3) 28				場面(なぜ行ったのか尋ねる場面)を理解し,正しい語順で書くことができる。
9	29	論述	表現	3文以上の英 作文	第1文に,与えられたThis isで始まる文を書くことができる。
	30				1つのテーマにそって,3文以上でまとまった内容の英文を書くことができる。

平成19年度宮城県学習状況調査 中学校2年 英語

通し番号	予想正答率	県正答率	誤答率	無答率	市町村正答率	正答
1	90比	76.9	22.5	0.6	50.0 ~ 84.7	2
2	80	62.7	36.8	0.6	51.1 ~ 80.0	3
3	80	77.7	21.7	0.6	62.5 ~ 85.6	1
4	80	77.1	22.6	0.3	59.0 ~ 90.0	4
5	80比	96.2	3.6	0.3	93.0 ~ 100.0	1
6	70比	67.9	31.8	0.3	56.3 ~ 90.0	4
7	60	62.4	37.3	0.3	52.0 ~ 76.0	4
8	70比	77.0	22.6	0.4	52.6 ~ 90.0	4
9	80比	97.5	2.3	0.3	94.4 ~ 100.0	3
10	70比	82.8	16.7	0.5	67.8 ~ 100.0	2
11	70	53.1	46.2	0.7	37.2 ~ 63.2	3
12	70	27.0	72.4	0.6	12.5 ~ 41.0	4
13	50	10.3	73.2	16.6	1.3 ~ 30.0	studies Japanese
14	60比	71.0	27.3	1.7	59.3 ~ 83.2	4
15	50比	46.4	52.5	1.0	28.2 ~ 60.0	3
16	50比	47.9	50.3	1.8	30.0 ~ 62.6	2
17	50比	58.6	39.5	1.9	46.9 ~ 80.0	1
18	60比	76.2	23.0	0.8	59.7 ~ 100.0	3
19	60比	47.4	51.5	1.1	30.0 ~ 58.2	3
20	60比	63.0	36.0	0.9	43.6 ~ 80.0	3
21	50比	55.9	42.8	1.3	44.3 ~ 65.7	2
22	70比	79.5	19.5	1.0	57.5 ~ 100.0	2
23	60	50.8	48.1	1.1	33.3 ~ 70.0	1
24	60	58.9	39.8	1.3	42.5 ~ 90.0	4
25	60	56.4	42.2	1.4	43.9 ~ 70.0	3
26	50比	40.2	54.3	5.5	15.4 ~ 62.8	How many DVDs do you have(?)
27	50	79.0	16.0	5.0	70.0 ~ 90.0	(I) call it tama(.)
28	50	49.5	43.3	7.2	29.9 ~ 71.1	Why did you go there(?)
29	60比	50.1	8.8	41.1	28.8 ~ 73.0	(例) This is my computer. This is very important for me. I use it every day because it is fun. (注) 第1文について、This is の後に日本独自のものを入れる場合、それがローマ字で書かれていても可。また、This is の次に物や人を示さず、すぐに具体的な説明を続けても可。
30	40比	25.7	29.8	44.4	6.4 ~ 54.1	(例) This is my computer. This is very important for me. I use it every day because it is fun. (注) 第2文以降では、発表しているものや人について具体的に説明していること。また、3つの文が1つのテーマに沿って書かれていること。

注) 予想正答率の欄にある「比」は、経年比較問題であることを示す。